



明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



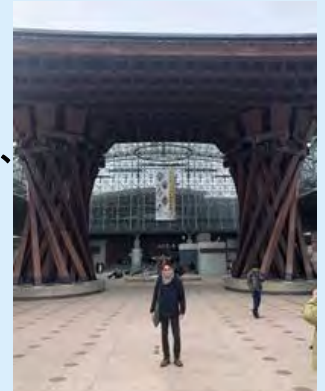
船越税理士事務所一同

「お客様と共に幸せな人生を生きる」-そのために^{あたま}頭脳をフル回転させる-

大々的にあまり表に出してはいないんですけど、上記が弊所の基本理念です。サービス業の弊所が、お客様の幸せのために動くのは当たり前です。そのために常により良い方法を考え行動する、それも速やかに。この当たり前に加えて、我々職員がその活動に疲弊してしまって、自身の健康・家族を犠牲にしていたのでは、お客様に真の幸せは届けられません。したがって、我々は、お客様に幸せな人生を送っていただくために、自らの生活の充実も両立させ、お客様と笑顔でお会いできるよう心がけています。

といったわけで？、1月5.6日に家族で金沢に行ってきました。全員社会人となった子どもたちが企画してくれた14年ぶりの家族旅行でした。これで1年間働く力をしっかり蓄えました。

よーし、今年も皆様の幸せのために働くぞお！！ 船越



金沢駅にて

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【士魂商才の冒険家「山田長政」】

徳川家による天下泰平がもたらされた江戸初期、夢を求めてシャム（タイ）に渡り活躍した山田長政。その出自には 諸説ありますが、1590年に駿府（すんぷ：現在の静岡県）で商人の子として生まれたといわれています。城下町である駿府が活気を帯びる中、徳川家康の家臣だった大久保忠佐（ただすけ）の駕籠（かご）かきに任せられ、長政は武士の身分となります。しかし、江戸幕府成立後は戦乱は少なくなり、武士の出世のチャンスも激減。家康が起こした海外貿易ブームに触発される形で、22歳の頃にシャムに渡ったのでした。その当時、東南アジア各地には、海外で一旗揚げようと渡航した戦国浪人を中心に日本人町が形成されていました。長政はシャムの王都・アユタヤの日本人町にたどり着くと「自分は織田信長の縁者だ」とはったりをきかせて人々の心をつかみ、優れた弁舌と面倒見のよさで日本人町のリーダーとなります。その後、貿易商としても才能を開花させ、さらには日本人傭兵隊を組織してシャムの国防にも大いに貢献しました。その功績を認められ、アユタヤ王国の貴族の地位も得たのでした。しかしその後、王朝一族の確執に巻き込まれると辺境の地に追いやられた揚げ句、毒殺により命を落とします。武士の心と商人の才を併せ持ち、在外邦人の暮らしの安全と安定に心を砕いた40年の生涯でした。



今を生きる
先人の言葉

楽しむのではなくて
面白がることよ

個性派の女優である樹木希林の言葉。楽しむことは外から眺めていてもできる。しかし、輪の中に入ってはしゃぎ回れば面白くなってくる。さあ、飛び込もうよ！

今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【ユニコーン企業】

未上場ながらも投資家から高い評価を得ている企業のこと。評価額が10億ドル（約1100億円）に達している急成長企業を指し、現在は米国や中国の企業が多くを占めている。伝説の生き物である一角獣（ユニコーン）が名前の由来で、めったに出現しないという意味も込められている。日本では、政府が「未来投資戦略2018」の中で「ユニコーンまたは同等の上場企業を2023年までに20社創出する」という目標を掲げている。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【喜びを「もうける」発想】

お正月にたこ揚げをする子どもの姿は、今やブラウン管のテレビと同じくらい珍しい光景になりました。けれど遊び方は変わっても、子どもたちの発想がユニークなことに変わりはありません。小学校のテストで次のような問題が出されたそうです。「自分たちがいつも使っているスポーツ用品に、どんな工夫をしたらスポーツ観戦が盛り上がると思いますか？スポーツ用品会社に提案するつもりで盛り上がる理由も考えてみましょう」。これに対してある女子小学生は「盛り上がる工夫：女子選手のズボンの丈を短くする」「盛り上がる理由：おじさんたちがヒューヒュー言うから」と回答していました。テストの問題も斬新ですが、小学生の発想も柔軟ですね。果たしてこの問題、自分ならどう答えるかと考えてみたのですが、この小学生の柔軟な発想を超える工夫は思い付きませんでした（笑）。さて、ここで質問です。「〇〇をもうけたい」。あなたなら〇〇にどんな言葉を入れますか。「お金」と入れる人が多いだろうと想像しますが、ある社長は〇〇に「喜び」を入れ「私はお金をもうけるというより喜びをもうけたい」と言いました。地元で採れる規格外の農産物を使って画期的な商品開発と販売に成功したその社長によれば、商品開発は大変だったけれど、喜びをもうける気持ちを忘れずにいると自然と多く



のご縁が繋がって、どんどん良い方向に話が進んだとか。販売は業務用のみ。小売り向けの販売やネット通販はアウトソーシング。そのほうが自社コストを最小限に抑えられ、かつ他社の利益も大きくなるからだといえます。喜びを「与える」「創る」「生み出す」ではなく「もうける」という発想に「ヒューヒュー」と言いたくなるのは私だけでしょうか。ちなみに「女子選手のズボンの丈を短くする」という回答に対して「確かに・・・。ってアホか!」とコメントした先生。テストの答えとしては×でも個人的にはユニークで◎と、ヒューヒュー言いながら書いたかもしれません。商売に浮き沈みはあれど、心の中ではいつもヒューヒュー言いながら柔軟に対応していきたいものですね。

トナリの

本棚



【ナナメの夕暮れ】

お笑いコンビ・オードリーの若林正恭のエッセイです。生きていて全然楽しくないと思っていた著者が、ゆるやかに他人や社会と折り合いをつけていく過程が独特の視点で書かれています。「合う人に会うのが人生」という言葉が印象的です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎

① メール道：【大和言葉を使った気の利いた言い回し】

ビジネスメールに大和言葉を取り入れると、気の利いた言い回しとして活用できます。例えば「遅ればせながら」。遅れてはせ参じることで、肝心なときに人より遅れて駆けつけることを意味します。最も良いタイミングは逃してしまったけれど、相手に気持ちを伝えたいときに用いるとよい言い回しです。年賀状を出しそびれた相手に今年最初のメールを送るとき「遅ればせながら、新年のごあいさつを申し上げます。本年もよろしく願いいたします」といった具合に使います。お祝いを相手に直接言うタイミングを逃してしまったときも、メールでやりとりする際に「この度はご結婚おめでとうございます。遅ればせながら、お祝い申し

<ビジネスメールに使える大和言葉>

- 「遅ればせながら」
 - ・遅ればせながら、新年のごあいさつを申し上げます。
- 「賜る」
 - ・お品を賜り、ありがとうございます。
 - ・機会を賜り、感謝申し上げます。
 - ・ご縁を賜り、お礼申し上げます。

あげます」と、ひと言添えておくこともできます。お礼を伝えそびれた場合も、相手への感謝の意をメールに書き、結びに「遅ればせながらお礼まで」として送れば、たとえ短い文でも何もせずにやり過ごすより、相手に気持ちを伝えることができます。もうひとつ覚えておきたいのが「賜（たまわ）る」です。人から何かをもらう場合、それが目上の相手からのときにへりくだって相手を立てる謙譲語として用います。贈答品

のような形のあるものをもらったときは「この度は結構なお品を賜り、誠にありがとうございます」のように使うほか、目に見えないものをもらうときも「このような機会を賜り、心より感謝申し上げます」「来賓の佐藤さまからお言葉を賜りたいと存じます」といった具合に使います。この他にひいきにしてもらっている客先に対しては「ご愛顧を賜り」、人との出会いに対しては「ご縁を賜り」のように使います。このように自分には過ぎた言葉や心遣いを相手からしてもらったときに、相手に対する敬意と感謝を込めて使うことの多い言葉です。式典や改まった席でもよく用いますね。ちなみに、上司の指示や客先からの依頼を引き受けるときに使う「承（うけたま）る」は、目上の相手からの命令を「受け」て「いただく」という意の「受け賜る」から生じた言葉です。

②メール道：【敬意を込めて付ける美化語「お」と「ご」のルール】

クレジットカード会社からのお知らせで、次のようなメールを受け取りました。「お電子マネー〇〇〇へのクレジットカードチャージにおけるポイント付与に関するお知らせ」。「お金」「お札」「おつり」など、金銭を示す言葉に美化語の「お」が付くケースはありますが、金銭に代わるものとして普及している「電子マネー」にまで「お」は必要でしょうか。相手に関する美化語に尊敬の意を込めて付ける「お」「ご」があります。例えば、相手の体や持ち物には「お顔」「お名前」「お住まい」など。相手の動作・行動には「お買い上げ」「お帰り」「ご乗車」「ご予約」など。相手に関わることとして「お徳用」「ご利息」「ご預金」などが挙げられます。「お電子マネー」という表記も「お客さまの電子マネー」という意で、相手への敬意を表すために使われ

<「お」と「ご」の使い方>

- 「お」が付く金銭を示す言葉
お金・おつり・お札・お小遣い
- 「お」が不要な金銭を示す言葉
お電子マネー・おクレジットカード
- 「ご」が付く金銭を示す言葉
ご送金・ご入金・ご預金
- 「お」「ご」両方付く金銭を示す言葉
ご利息・お利息

ているのかもしれませんが、言葉としての違和感はぬぐえません。

「お」を付けずに「電子マネー〇〇〇へのクレジットカードチャージにおけるポイント付与に関するお知らせ」としても、メールの受け取り手には失礼にならないでしょう。「おビール」「おソース」「おトイレ」など、外来語に「お」を付けた言葉も見受けられますが、外来語にも「お」は付けないのが原則です。お客さまのクレジットカードも「おクレジットカード」「おカード」とは言いませんね。ちなみに「お」と「ご」の使い分けの基準は、訓読みの和語の前に付くのが「お」、音読みの漢語の前に付くのが「ご」とされます。しかし、必ずしも和語には「お」、漢語には「ご」というルールどおりで

はない言葉もあります。和語でも「ご」を付ける例としては「ご入り用」「ごゆっくり」「ごもつとも」など。漢語でも「お」を付ける例としては「お礼状」「お加減」「お時間」などがあります。「ご利息」は「お利息」という言い方もあり、どちらも付く場合があります。一般的に「お」が付くとカジュアルな印象、「ご」が付くと改まった印象を与えますが、使い分けの境界線があいまいになっている言葉はたくさんあります。

③メール道：【気の進まない誘いへの対処法】

気の進まない飲み会などに誘われ、断りたいとき「すみません、今日はちょっと・・・」という断り方では理由がはっきり分からないので「なんで？」と押し切られる可能性があります。「すみません、その日は無理です」という断り方も「無理」という拒絶が、誘った相手に良い印象を持たれません。このようなときは「せっかくお誘いいただいたのに、すでに予定があり残念です」あるいは「今日はあいにく先約があり、参加できず残念です」という返事の仕方があります。ポイントは、参加したいけれど事情があり、参加できない意を伝えることです。「せっかく」「あいにく」という言葉を添え「残念です」で締めくくると相手に受け入れられやすくなります。「参加したくない」が本音でも、それをストレートに相手にぶつけてしまうと「せっかく誘ったのに・・・」と反感を買うこととなります。「参加しない」という拒否の姿勢を前面に出すのではなく「(本当は参加したいけれど)参加できない」という形で返答すれば、角が立ちません。言い方ひとつ書き方ひとつで印象が変わるため、断るときも自分の気持ちのままに直球勝負するより、相手の受けとめ方を考慮した変化球で対応するとよいでしょう。目上の相手から誘われる飲み会などで、忙しくてそれどころじゃないというのが本音の場合も、忙しいことを理由にするのはできれば避けたいものです。

このようなときは「あいにく今、立て込んでおりますので、落ち着いたらこちらからお声がけいたします」という返答の仕方があります。まず「あいにく」を使って、相手の誘いに今は応えることができない状況を伝え「時間の余裕ができたなら改めてこちらから声をかけます」と前向きな姿勢で返答すれば相手も気を悪くしません。その場で拒否・拒絶するとそこで関係も途切れますが、一旦は相手の意向を受けとめ、次の機会にこちらからアクションを起こす旨を伝えれば相手も安心できます。このようにバツサリ切り捨てて終わりにせず、先に可能性を残す断り方が理想的でしょう。

<角の立たない断り方>

- × 今日はちょっと・・・
- せっかくお誘いいただいたのに、すでに予定があり残念です。
- × 無理です。
- 今日はあいにく先約があり、参加できず申し訳ないです。次回はぜひ参加したいので、お声がけください。

④メール道：【入力ミスをしやすい「一字違いの言葉」に要注意！】

読みが同じで表記が異なる言葉は、文字を入力する際にうっかり間違いやすいものです。特に一字しか違わないと見過ごしてしまうこともあります。そこで今回は、入力の際に気を付けたい言葉をピックアップして紹介します。「はいふ」には「配布」と「配付」があります。配布は、広く行き渡るように配ること。配付は、確実に相手に届くように配ること。配布の「布」は、広く行き渡らせるという意味があり、配付の「付」には、物を手渡すという意味があります。誰にでも届くようにばらまくのが「配布」、特定の相手に手渡すのが「配付」というイメージでしょうか。ただ、新聞表記や法令用語としては「配布」に統一されています。通常は「配布」を用いますが、あえて意味の違いを強調したい場合は「配付」を使うこともあります。「きてい」には「規定」と「規程」があります。どちらも「守らなければならないこと」という意味です。物事のやり方や内容などを決めた条文として定めることであり、その定められたひとつひとつの約束ごとを指します。

<要注意の「一字違いの言葉」>

- 「配布」と「配付」
 - 街頭でチラシを配布する
 - 参加者に資料を配付する
- 「規定」と「規程」
 - 規定の書式・規定料金
 - 服務規程・国家公務員倫理規程
- 「確立」と「確率」
 - 体制の確立
 - 成功する確率は80%

新聞表記では「規定」に統一されていますが、官公庁などの内部執務に関するものには「規程」が使われています。さらに同じ読みの言葉に「既定」もあります。文字通りすでに決定していることで、反対語は「未定」です。「かくりつ」には「確立」と「確率」があります。確立は、制度・組織・計画・思想などをしっかりと打ち立て定めること。確率は、ある現象が起こる可能性の度合いを意味します。確立は、物事の基礎となることを十分用意したうえで、しっかりしたものに作り上げることです。対して確率は、ある現象が起こる現実性の大きさのことなので、現実さを計算し数字として表わせる場合に多く用います。文字を入力するときに「確立」と「確率」を取り違えたまま入力してしまう場面が多く見受けられます。文字通り打ち立てるのが「確立」、率とかパーセンテージで可能性の度合いを示すのが「確率」と覚えておくといいかもしれませんね。

編集後記



明けましておめでとうございます。今年は、亥年です。正確に言うと「己亥年」となるそうです。今の状態を維持できるように守りに徹したほうがいい年とされています。イノシのように猪突猛進していきたい気持ちですが、しっかりと周りを確認しながら、周囲のものを壊さない程度に猛進していきたいと思います。平成も残すところ4カ月となりました。5月には年号が変わりますね。次の時代も皆様にとってより良い時代になりますよう、お手伝いさせていただきます。今年も宜しくお願い致します。(上岡・白井)